



2026 年 7 月 22 日に開催された

2026 年度第 3 回理事会(定例)の概要をお知らせします。

<決議事項>

●競技普及基盤委員会の設置

- ・ 前回の理事会で一度報告している案件となる。近年のバレーボール競技人口は減少、学校部活動の地域展開や子どもたちのスポーツ活動の多様化に伴い、将来にわたり競技を発展・継続、競技者の拡大（MRS 登録）と有望選手の発掘推進を目的として、「競技普及基盤委員会」を設立したい。
- ・ 今後の業務執行理事会において、委員会メンバーの承認を受けていく。また、体制として部会の設置が必要となった際は改めて理事会に提案する。
- ・ 委員会メンバーに日小連、中体連、高体連のトップの方を想定しており、各カテゴリーの全国大会の開催時期も鑑み、8 月末頃からの始動を目指す。

【決裁事項】

提案のとおり、競技普及基盤委員会を設置について承認された。

●競技普及基盤委員会委員長の選任について

- ・ 前議題で競技普及基盤委員会が設置されたため、委員長に大竹秀之競技普及ダイレクターを選任したい。
- ・ これまでも競技者拡大・発掘育成に関わっていただいた経緯と、アスリートとしての経験も豊富であることが委員長に推薦する理由。

【決裁事項】

提案のとおり、大竹秀之氏を競技普及基盤委員会委員長に選任することについて承認された。

●日本代表選考規程の新設

- ・ 5 月末に発生した日本代表選手（現在は代表への登録を抹消済）の麻薬取締法違反による逮捕を受け、再発防止の一環として、日本代表選考規程を制定したい。
- ・ 事前に薬物も含めた検査をしっかりと行い、コンプライアンス面で問題がないことを確認した上で、インテグリティをしっかりと身につけた選手を対象に選考していくことを規程化する。
- ・ 技術委員会で確定させる前に、業務執行理事会に報告する手順とする。懸念事項がある場合は委員会に差し戻せることとし、場合によっては代表を撤回することも可能としている。
- ・ アンダーエイジカテゴリーについては、未成年のため本人の理解を得ることを含め丁寧に進めていく。



個人情報の管理を徹底し、恣意的な検査にならないよう公平に実施していきたい。

【決裁事項】

提案のとおり、日本代表選考規程の新設について承認された。

●アナリストライセンス規程およびアナリスト移行措置細則の新設について

- ・これまでハイパフォーマンスグループ内での取り組みに留まっていたアナリスト育成事業およびライセンス交付について、先般 SV リーグの常勤アナリスト配置の制度化に伴い、JVA においても公認資格とするために、規程を制定していきたい。
- ・アナリストライセンスの制度化に伴い、今回は JVA 公認アナリストライセンス規程および JVA 公認アナリスト移行措置細則の制定と、関連規程（委員会規程、事務局規程、登録規程）の改定を提案する。

○JVA 公認アナリストライセンス規程の概要

認定要件や認定方法を定めており、特に S 級から D 級の活動領域を定義化した。S 級ライセンスは日本代表・SV リーグでのトップアナリストとなり、非常に高度な資格となることから技術委員会で推薦し、最終的には理事会で承認していく流れとなる。

[公認アナリストライセンスの種類]

資格	認定の基準	主な活動領域の想定
S 級	次条に定める	日本代表（フル代表）・SV リーグでのトップアナリスト
A 級	技能検定の 3 領域すべてが評価 A 以上	日本代表・SV リーグでのアナリスト業務
B 級	技能検定の 3 領域すべてが評価 B 以上	SV グロースでのアナリスト業務／日本代表・SV リーグでのアナリストのサポート
C 級	技能検定の 3 領域すべてが評価 C 以上	大学等でのアナリスト実務
D 級	技能検定の 3 領域すべてが評価 D 以上	大学等でのアナリスト実務者のサポート

○JVA 公認アナリスト移行措置細則の概要

これまでハイパフォーマンス内での取り扱ってきた運用ルールと新規規程とのすり合わせが必要であることから、新ライセンスにどのように適合していくかを定めている。

[旧ライセンス区分から新ライセンス区分への適合表]

旧ライセンス（旧検定の認定ランク）	新ライセンス
インストラクター	JVA 公認アナリスト A 級
レベル V	JVA 公認アナリスト A 級
レベル IV	JVA 公認アナリスト A 級



レベルⅢ	JVA 公認アナリスト B 級
レベルⅡ	JVA 公認アナリスト C 級
レベルⅠ	JVA 公認アナリスト D 級

- ・旧ライセンス保持者が新ライセンスに移行完了次第この細則は廃止とする。

【決裁事項】

提案のとおり、JVA 公認アナリストライセンス規程および JVA 公認アナリスト移行措置細則の制定についてそれぞれ承認された。

●登録規程の改定について

- ・アナリスト資格の制度化に向けて、資格の認定には MRS 登録を必須としていくことから、登録対象者である指導者、審判員、判定員に新たにアナリストも加えて、登録規程の別表 1「資格区分、資格名、更新年度、登録料等」を明記したい。

【決裁事項】

提案のとおり、登録規程の改定について承認された。

●事務局規程の改定について

- ・アナリストの認定について、JVA が事業として実施するにあたり、事務局規程第 5 条のハイパフォーマンスグループの所管業務に「(12) アナリストの養成と資質向上に関すること」を追記したい。

【決裁事項】

提案のとおり、登録規程の改定について承認された。

●委員会規程の改定について

- ・本日の理事会において承認された、競技普及基盤委員会の新設および、技術委員会によるアナリスト関連業務の追加により、委員会規程の所管事項ならびに担当事務局を別表 1 に改める必要があるため、改定を提案したい。

[別表 1：各種委員会の所管事項および担当事務局（追記項目抜粋）]

技術委員会 ：アナリストの養成および技術向上に関する事項
 アナリストのライセンスに関する事項

競技普及基盤委員会：地域クラブ化・指導者派遣に関する事項
(担当：競技普及) 新規競技者拡大に関する事項



競技継続者拡大に関する事項
競技継続意欲促進に関する事項
競技者発掘育成に関する事項
MRS 登録促進及び競技者情報収集・データベース化促進に関する事項

【決裁事項】

提案のとおり、委員会規程の改定について承認された。

●ロサンゼルス五輪ビーチ日本代表選手選考基準について

- ・ロサンゼルス五輪に向けた選考方法に関しては、技術委員会の中で確認を行っている。団体競技であるため、個人競技に比べ具体的な基準が示しにくい、選考理由の説明義務などは明確にしておきたく、基準を公表したい。

○ロサンゼルスオリンピック出場枠の獲得方法について

- | | |
|--------------------------------|------|
| ① 2026 ビーチバレーボールアジア選手権大会優勝チーム | 1 枠 |
| 2027 ビーチバレーボール世界選手権大会優勝チーム | 1 枠 |
| ② オリンピックランキングで上位 14 チームに入ったチーム | 14 枠 |
| ③ オリンピック最終クオリファイシリーズで優勝したチーム | 1 枠 |

- ・パリ五輪からの変更点として、オリンピックランキングによる出場枠が 17 位→14 位と数が減少。オリンピック直前の 6 月末に開催されていたアジア最終予選がアジア選手権大会として 2 年前倒しとなり、新たにクオリファイシリーズが設置された。
- ・基本的には出場権を獲得したチームがオリンピックに出場することになるが、枠を獲得してから実際の五輪出場までは期間が空くため、その間に怪我やランキングの低下、ペアの解消などが起こった場合も想定して、このようなケースが起こった場合は、代表決定戦を行った上で決定することを別途基準に付け足す予定でいる。その点については、技術委員会と相談し、改めて理事会に提案する。

【決裁事項】

提案のとおり、ロサンゼルス五輪ビーチ日本代表選手選考基準の制定について承認された。

●基本規程の改定について

- ・定款については要点を絞り内容を簡素化し、細かい部分を各種規程に落とし込むかたちを取っており、その橋渡しを担う基本規程の制定については、4 月の理事会で承認を得た。この規程の中には JVA の



各種規程の一覧が別表に盛り込まれているが、規範やガイドラインならびに新たに制定された（一覧に含まれていなかった）規程等について、今回このタイミングでしっかり取り込んでいきたい。

- ・規範についてもしっかり定義化し、「規程、細則、宣言、規範、ガイドライン等」、含まれていないものを一覧に追加する。

【決裁事項】

提案のとおり、基本規程の改定について承認された。

●助成金交付規程の改定および地域基盤強化助成金に関する細則の制定について

- ・これまで組織基盤改革プロジェクトの中で、都道府県協会の法人化後も安定した運営を行うためにも JVA から地域組織基盤強化という形で助成金を交付するにあたり、既存の助成金交付規程で不足している項目を細則として定める事で、助成金の用途などについて、規程の改定と細則の制定を提案したい。
- ・交付金対象は、都道府県協会と 9 地域のブロック連盟であり、細則には加盟団体規程の遵守や、万が一、助成金の使い道に不備が出た場合には返金いただくことも記載している。
- ・交付金については、MRS の登録料を財源とした形で交付をする。今年度から、MRS の登録料を値上げし、登録者に負担をいただく形とはなるが、その値上げ分の使途はブロック連盟や都道府県協会に還元し、登録者に対して事業が行えるような運営体制を構築することを目的としている。

【決裁事項】

提案のとおり、助成金交付規程の改定および地域基盤強化助成金に関する細則の制定について承認された。

●ハイパフォーマンスセンター神戸（新トレセン）の設立について

- ・日本代表の合宿等については、現在ナショナルトレーニングセンターの専用・共用コートを使っているが、男女のシニア代表チームをはじめ各カテゴリーで動いているため、稼働が非常に厳しい状況である。また宿泊施設の不足などもあり、利用できないケースも発生している。
- ・東西バランスよく練習拠点をもうけることができれば良いと考え、西の拠点として、神戸の久光製薬が使っていた合宿所を改修し、新たにハイパフォーマンスセンターとして、バレーボールの日本代表強化の拠点を設けたい。
- ・施設の特徴としては、医科学サポートによる高いレベルのトレーニング、リカバリーが行える施設とし、加えてバレーボールインテリジェンスハブとして、各世代の選手を対象にデータ分析・サイエンスを駆使した選手強化・育成を目指す。また、強化を支える人材の育成と環境整備も行っていく。
- ・現施設は 5 階建てとなり、その改修設備プランについては 3 パターンの計画を立てた。費用負担等も



含めて比較検討した結果、先行してハイパフォーマンス施設に特化して進めていくことを優先し、本日の理事会では梅プランを提案する。ただし、今後トップパートナーや共創パートナーが獲得できれば竹プランを目指していく。

(案1) 梅プラン
1 階（アリーナ、トレーニングルーム、会議室、スタッフルーム、）2 階（60 畳の畳部屋）
(案2) 竹プラン
梅+3～5 階に居室
(案3) 松プラン
松+露天風呂（新設）+食堂棟（新設／別棟）

- ・100 周年記念事業の一環として組み込み、100 周年の観点からの協賛も募っていく。ハイパフォーマンスセンターの取り組みに興味を示している企業もあるため、共創パートナーとして一緒に設備体制をつくりあげていく事を想定している

【決裁事項】

提案のとおり、ハイパフォーマンスセンター神戸（新トレセン）の設立について承認された。

●元日本代表選手の事案に対する対応策の組織決定について

- ・元日本代表選手が逮捕された事件を受けて、JOC から改めて本案件の経緯、今後のスケジュールおよび再発防止策を機関決定した上で提出するよう要請を受けたため、本理事会で決議を行い提出させていただく。
- ・これまでの経緯についての説明が行われた。
- ・再発防止策としては、本日承認を受けた日本代表選考規程の制定と、JAPAN バレーボール宣言・WAY および日本代表選手等に関する行動規範の周知・徹底およびインテグリティ教育・研修を掲げている。

【決裁事項】

提案のとおり、元日本代表選手の事案に対する対応策の組織決定について承認された。

<報告事項>

●中期経営計画進捗管理委員会の経過報告（石塚委員長より）

これまで委員会活動を 2 年間行ってきた中で、会議への報告フォーマットが非効率であり、リーダー



がマネジメントをするのに難しい面があった。全面的に実効性を上げ、効率的に改める作業を行ってきた。新フォーマットが完成したため、遅ればせながら、第一四半期の報告会を実施する。今後、新しいフォーマットによって行われた進捗確認の報告を理事会にさせていただく。

●2026 年度第 1 四半期職務執行報告書（シニアダイレクター）

理事会運営規程に基づき、2026 年度第 1 四半期の職務執行報告がグループシニアダイレクターより行われた。

●100 周年記念事業プロジェクトの進捗報告

川合会長からも話があったとおり、100 周年動画を国際連盟（FIVB）の役員が見たときに、日本バレーボール協会の 100 周年記念事業に感銘を受けて、記念式典に出席いただけることになった。100 周年記念事業として、「今後、日本バレーボール協会は次の 100 年をどうしていくのか」その構想をステアリングコミティメンバーとアドバイザーで作り込みをしている。作成いただいたデザインプランの「PASS IT FORWARD」は、私たちの中心にあるビジョンであり、「強化、普及、市場、社会」という 4 つの観点で、施策を進めようとしている。バレーボールファミリーという位置づけの中で、ステークホルダーも含めて、次の 100 周年における事業を具体的に進めていくことを定義している。

スライドは現在作成途中であるため、まだ明確に謳っていない部分もあるが、100 年構想として、強化、普及、市場、社会の観点で、それぞれのリーディングネーションを確立するためのアクションを行い、世界有数の国として、あるいは世界の常にトップとして位置づけていくことを目標に掲げている

プロジェクトの体制は、新たにワーキンググループのリーダーにそれぞれの部署から担当者が割り当てられているため、事務局のマルチタスク体制でどのように進めていくかの調整を進めている。スケジュール表についても各レイヤーで調整をしながら準備を進めている段階である。8 月・9 月のステアリングコミティでの議論を経て、最終的には本スライド、スケジュール、組織等々を含めた、JVA100 周年プロジェクトに関する正式記者発表会を想定している。他方で SV リーグの新シーズンスタートもあるため、この辺りのスケジュールが重複しないよう、前倒しで現在進めているため、次の理事会では、しっかり説明できるように努めたい。

●VNL2025 男子賞金配分の支給訂正について

昨年のネーションズリーグにおいて獲得した賞金を、代表選手に出場実績に応じて配分をしている。しかしながら、その計算過程で 1 名の男子選手について、計数に誤りがあったため、不足額を支給し、訂正を行っている。本来配分する原資があったが、配分後に誤りに気づいたため、JVA として追加負担も発生しているが、我々の責任である。手続き上の不備と訂正対応を行ったことについて報告する。

以上